



「ストップ・ザ・無縁社会」
 広がれ! 全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>



キャンペーン協賛事業

「町内・集落福祉全国サミットin淡路市」開催される!

「集落福祉」への思いを全国に発信

11月25～26日の2日間、淡路市で「第5回町内・集落福祉全国サミットin淡路市」が開催されました。第2回サミットが平成25年に淡路市で開催され、淡路市社協ではその後も市内の住民を対象にした集落福祉フォーラムを毎年開催。活動事例の発掘・収集や住民活動の支援に継続して取り組んできました。そして4年が経過し、これまでにまかれた種が大きく花開き、再び淡路市から集落福祉活動を全国に発信していこうと、役職員の強い思いで実現に至りました。今回は「地域は家族だ! (続) 地参地笑のススめ」をテーマに、全国各地

から約800名が淡路島に集結しました。

冒頭の基調対談では、淡路市社協の小南廣之会長が登壇。地域での支え合いや障害者の自立支援を通じて福祉のまちづくりを進める市社協の取り組みや、同サミットの開催に対する熱い想いが話されました。

その後、淡路市の「集落活動」として、NPO法人兵庫ふるさと創成センターの藤岡淳二理事長より、高齢化が深刻な約30世帯の山間集落の佐野地区興隆寺町内会が取り組む過疎地有償運送など、住民相互の生活支援の実践が報告されました。



全国各地から約800名が参加した全体会



市内の作業所も共にサミットを盛り上げました

実践を基にこれからのまちづくりを考える

1日目の後半は分科会。「大規模災害からの復興の地域づくり」「子どもは集落のかすがい」など、集落福祉を巡る6つのテーマで、市内外の事例を通じてこれからの地域社会づくりの在り方を話し合いました。

2日目は、国で検討されている地域共生社会づくりに関する討論が行われました。県内外の事例を通じて、障害者などの当事者が地域住民と一緒に地域づく

りに取り組むことでみんなが元気になる「共生循環型地域社会」を目指すことを確認し合い、サミットは終了しました。地域福祉の研究者や行政関係者、市内外の幅広い実践者による充実したプログラムを通じて、集落地域における地域再生から、誰もが地域の一員として共に暮らし続けるまちづくりに向けた取り組みの大切さを共有した2日間となりました。



分科会ではテーマごとに淡路市内外の事例を紹介



次期開催地の熊本県山都町へバトンをつなぎました